

資料編



資料 1 今守りたい大切な自然

■今守りたい大切な自然とは

2004年（平成16年）3月に発行した「静岡県レッドデータブック」では、絶滅の可能性のある種の選定を主な目的としています。それらの対象種を取り巻く自然環境は、日本の高度経済成長とともに大きく変化し、生息・生育環境が悪化してきています。絶滅の危惧される種を保護・保全するためには、絶滅危惧種の個体を保護するのみならず、それらが生息・生育する環境自体を保全することが不可欠です。

これらのことから「今守りたい大切な自然」として重要生息・生育地を公表しました。

「今守りたい大切な自然」は、県内352箇所の候補地から選ばれた緊急に保護、保全が必要で、特徴的な生態系をもつ生息・生育地です。

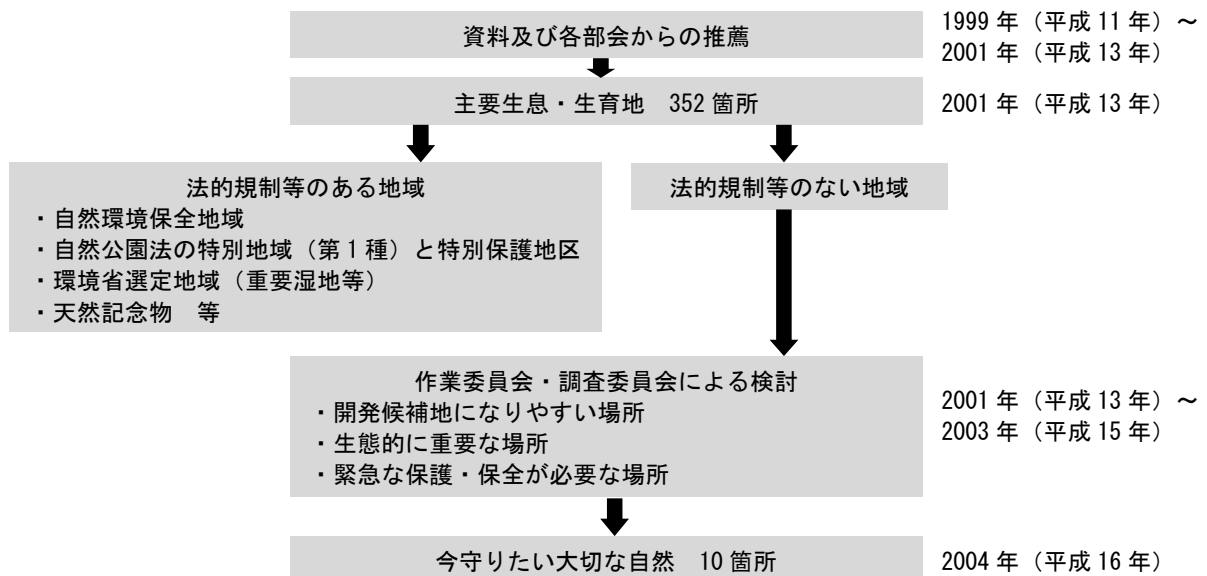
■選定経過

選定に当たっては、県内において主要な生息・生育地を特定植物群落や天然記念物等の資料から抽出し、それに自然環境調査委員会各分類群専門部会から推薦のあった場所を加えた合計352箇所がベースとなっています。

これらの場所から以下の選定基準によって最終候補地を絞り込みました。

①開発候補地になりやすい場所 ②生態的に重要な場所 ③法的規制等のない地域

その後、最終候補地については、作業委員会の視察、各専門部会の現地調査を実施し、その候補地が「今守りたい大切な自然」としての価値を有していない場合、対象から外し、「今守りたい大切な自然」の対象地域を決定しました。



今守りたい大切な自然の選定手順

■選定された今守りたい大切な自然（10箇所）

「今守りたい大切な自然」として選定されたのは、以下の10箇所であり、そのうち4箇所が河川河口、5箇所が湿地、その他が1箇所です（詳しくはP85を参照）。これらの選定地に対しては、2002～2003年（平成14～15年）にかけて現地調査を実施しました。

「今守りたい大切な自然」の選定地及び候補地等の中には、市町や地域住民、民間団体等による積極的な保全活動を実施している地域があります。今後もこのような地域ごとの積極的な取組を推進する必要があります。

選定地一覧

選定地名	市町名	特徴
①逆川湿地と周辺の自然林	伊豆市	<ul style="list-style-type: none"> 富士箱根伊豆国立公園内に分布 湿地は下層部の堆積物から約3,000年が経過していると推定 西伊豆には稀な湿地の生物相（ミズゴケ類、昆虫類ほか） 湿地周囲の落葉広葉樹の天然林
②浮島沼の湿地	富士市、沼津市	<ul style="list-style-type: none"> 愛鷹山と駿河湾の間に形成された典型的なラグーン（潟湖） 湿地の生物相（鳥類、魚類、両生類、昆虫類、貝類ほか）
③朝霧高原の草原	富士宮市	<ul style="list-style-type: none"> 富士山西北麓に広がる緩傾斜地（基盤は富士山からの溶岩と火山灰） 富士山西北麓の広大な草原 草原の生物相（哺乳類、鳥類、昆虫類ほか）
④藪田川とその周辺	藤枝市	<ul style="list-style-type: none"> 湿地や小川に生息する湿地固有の生物相（カワバタモロコの分布の東限）
⑤大井川河口付近	焼津市、吉田町	<ul style="list-style-type: none"> 急流河川河口部の生物相（河原の植物、ハゼ科魚類等の溯上経路等）
⑥太田川河口付近の干潟と海浜	磐田市	<ul style="list-style-type: none"> 県内屈指の良好な干潟 海浜の生物相（ハマボウ、鳥類、魚類ほか） 渡り鳥の中継地
⑦磐田市大池	磐田市	<ul style="list-style-type: none"> 遠州灘から直線距離で5km程離れた場所にある珍しい内陸干潟 池・干潟の多様な生物相（鳥類、魚類、昆虫類ほか） 渡り鳥の中継地
⑧天竜川河口と周辺の湿地	磐田市、浜松市	<ul style="list-style-type: none"> 河口と周辺湿地に見られる遠州灘海浜の原風景 河口および湿地の多様な生物相（クロマツ林、湿生植物、鳥類、魚類、昆虫類ほか） 渡り鳥の中継地
⑨都田川河口とその周辺	浜松市	<ul style="list-style-type: none"> 鳶ノ巣山系を源とする自然性の高い河川 下流域のヨシ原と周辺の希少な生物相（鳥類、魚類、昆虫類、陸・淡水産貝類ほか）
⑩雨生山の蛇紋岩地	浜松市	<ul style="list-style-type: none"> 雨生山頂上付近から南斜面にかけて広がる湿地帯 超塩基性岩の蛇紋岩地を基盤とする湿地の生物相（湿生植物、昆虫類ほか）

【資料：まもりたい静岡県の野生生物-静岡県版レッドデータブック（静岡県、2004年（平成16年））より作成】

今守りたい大切な自然及び候補地一覧(1)

番号	候補地	市町名	番号	候補地	市町名
《今守りたい大切な自然》			67	かんのんいがいが根	伊東市
1	逆川(さかさかわ)湿地と周辺の自然林	伊豆市	68	伊東大川上流域	伊東市
2	浮島沼(うきしまぬま)の湿地	富士市・沼津市	69	一碧湖(いっぺきこ)	伊東市
3	朝霧(あさぎり)高原の草原	富士宮市	70	宇佐美(うさみ)海岸	伊東市
4	藪田川(やぶたがわ)とその周辺	藤枝市	71	奥野ダム	伊東市
5	大井川河口付近	焼津市・吉田町	72	非公表	伊東市
6	太田川河口付近の干潟と海浜	磐田市	73	城ヶ崎(じょうがさき)	伊東市
7	磐田市大池(おおいけ)	磐田市	74	赤沢三島神社の社叢	伊東市
8	天竜川河口と周辺の湿地	磐田市・浜松市	75	天照皇太(てんしょうこうたい)神社社叢	伊東市
9	都田川(みやこだがわ)河口とその周辺	浜松市	76	天城高原	伊東市
10	雨生山(うぶさん)の蛇紋岩地	浜松市	77	八幡野来宮(きのみや)神社の社叢	伊東市
《今守りたい大切な自然の候補地》			78	浮山(うきやま)	伊東市
11	マーガレットライン沿い	南伊豆町	79	矢筈山(やはずやま)山頂部	伊東市
12	奥石廊(おくいろう)	南伊豆町	80	伊豆山(いずさん)神社の社叢	熱海市
13	子浦(こうら)	南伊豆町	81	下多賀(しもたが)神社社叢	熱海市
14	蛇石(じゃいし)火口	南伊豆町	82	今宮神社社叢	熱海市
15	青野川(あおのがわ)河口	南伊豆町	83	初島の陸産貝類	熱海市
16	石廊崎(いろうざき)西方の草原植生	南伊豆町	84	印野御胎内(いんのおたいない)	御殿場市
17	大根島(おおねじま)と対岸一帯	南伊豆町	85	自衛隊演習場	御殿場市
18	波勝崎(はがちざき)周辺	南伊豆町	86	二の岡神社の社叢	御殿場市
19	岩地(いわち)	松崎町	87	表富士五合目	御殿場市
20	巨鯛島(こだいじま)	松崎町	88	三国山(みくにやま)山頂	小山町
21	国柱木(くにはしらみこと)神社樟樹群	松崎町	89	須走(すばしり)口二合目	小山町
22	長九郎山(ちやうくろうやま)	松崎町	90	須走浅間神社の社叢	小山町
23	道部(みちぶ)	松崎町	91	大洞山(おおぼらやま)	小山町
24	白川八瀬沢(しらかわやせざわ)	西伊豆町	92	富士山東麓	小山町
25	一色(いしき)	西伊豆町	93	明神峠(みょうじんとうげ)	小山町
26	大沢里(おおそうり)大滝のシダ群落	西伊豆町	94	下和田杉学術参考保護林	裾野市
27	白川学術参考保護林	西伊豆町	95	黒岳(くろだけ)山頂	裾野市
28	安良里(あらし)浦守(くにたまみこと)神社	西伊豆町	96	山伏峠(やぶしとうげ)	裾野市
29	茨ノ木	西伊豆町	97	十里木(じゅうりぎ)の草原	裾野市
30	赤山芝山	西伊豆町	98	須山浅間神社スギ林	裾野市
31	大久須川(おおぐすがわ)日陰平	西伊豆町	99	浅黄塚(あさぎづか)ヒノキ学術参考保護林	裾野市
32	吉佐美(きさみ)	下田市	100	東白塚(ひがしうすづか)	裾野市
33	神子元島(みこもとじま)	下田市	101	頼朝の井戸の森	裾野市
34	須原(すはら)地区	下田市	102	三島市立公園楽寿園(らくじゅえん)	三島市
35	爪木崎(つめきざき)	下田市	103	三島大社の社叢	三島市
36	田牛(とうじ)	下田市	104	神明(しんめい)神社社叢	三島市
37	白浜(しらはま)神社	下田市	105	北沢湿地	三島市
38	蓮台寺(れんだいじ)温泉	下田市	106	柿田川	清水町
39	河津大滝(かわづおおだる)	河津町	107	久連(くづら)神社	沼津市
40	寒天モミ・落葉広葉樹学術参考保護林	河津町	108	沼川支流井出大川源流部	沼津市
41	見高川(みたかがわ)	河津町	109	沼津御用邸記念公園	沼津市
42	見高(みたか)浜弁天島	河津町	110	西浦(にしうら)海岸	沼津市
43	宗太郎人工杉学術参考保護林	河津町	111	千本松原	沼津市
44	谷津南林寺	河津町	112	大瀬崎(おせざき)	沼津市
45	シラスタの池の植物群落	東伊豆町	113	淡島(あわしま)	沼津市
46	稲取(いなとり)	東伊豆町	114	爪島	沼津市
47	桐山人工杉学術参考保護林	伊豆市	115	門池(かどいけ)	沼津市
48	狩野川支流持越川(もちしがわ)源流部	伊豆市	116	鷲頭(わしづ)山	沼津市
49	浄蓮学術参考保護林	伊豆市	117	愛鷹(あしたか)山	沼津市・富士市等
50	仁科峠北方の湿地	伊豆市	118	桑崎(かざき)神社	富士市
51	天城山(あまぎさん)	伊豆市	119	須津川(すどがわ)上流	富士市
52	猫越(ねっこ)檜山(かしやま)学術参考保護林	伊豆市	120	富士市丸火(まるび)公園	富士市
53	カワゴ平	伊豆市	121	富士川下流域～中流域	富士市
54	万三郎(ばんざぶろう)	伊豆市	122	富士川河口	富士市・蒲原町
55	狩野川大橋付近	伊豆市	123	猪の頭(いのがしら)	富士宮市
56	修善寺の社寺林	伊豆市	124	天子(てんし)岳山頂	富士宮市
57	修善寺桂川	伊豆市	125	田貫湖(たぬきこ)	富士宮市
58	土肥(とい)神社の社叢	伊豆市	126	白糸滝	富士宮市
59	御浜崎(みはまざき)	沼津市	127	表富士高鉢(たかはち)山	富士宮市
60	明神池(みょうじんいけ)	沼津市	128	表富士三合目	富士宮市
61	守山雑木林	伊豆の国市	129	富士山西麓	富士宮市
62	大沢池	伊豆の国市	130	富士山南西斜面	富士宮市
63	大見川支流年川(としがわ)上流部	伊豆の国市	131	本門寺(ほんもんじ)の社叢	富士宮市
64	松毛川(まつげがわ)及び三ヶ月湖	三島市・沼津市	132	毛無山(けなしやま)山頂	富士宮市
65	丹那(たんな)盆地	函南町	133	六番学術参考保護林	富士宮市
66	函南山	函南町	134	麓(ふもと)	富士宮市

今守りたい大切な自然及び候補地一覧(2)

番号	候補地	市町名	番号	候補地	市町名
135	埴塚(とやつか)学術参考保護林	富士宮市	208	湯日(ゆい)~切	島田市
136	向田(むかいだ)西方	富士宮市	209	飯瀧川(はぶちがわ)(土合川(どあいがわ))(清水川)	焼津市
137	桜峠	富士宮市	210	下泉(しもいずみ)	川根本町
138	大田和(おおだわ)	富士宮市	211	久野(くの)	川根本町
139	富士川支流稲子川(いなこがわ)支流西沢	富士宮市	212	大札山(おおふだやま)	川根本町
140	神沢川(かみざわがわ)河口	静岡市	213	蕎麦粒山(そばつぶやま)	川根本町
141	興津川河口	静岡市	214	寸又峡(すまたきょう)	川根本町
142	興津川上流	静岡市	215	寸又峡上流柴沢	川根本町
143	黒川流域	静岡市	216	接岨峡(せつそきょう)	川根本町
144	三保の松原	静岡市	217	千石平(せんごくだいら)	川根本町
145	清見寺(せいけんじ)	静岡市	218	大井川源流部	川根本町
146	袖師(そでし)神明宮(しんめいぐう)の社叢	静岡市	219	大無間山(だいむげんざん)	川根本町
147	波多打川(はたうちがわ)河口	静岡市	220	田代	川根本町
148	イザルヶ岳北斜面	静岡市	221	梅地(うめじ)	川根本町
149	安倍川・丸子川河口とその付近	静岡市	222	幡住(はたすみ)	川根本町
150	安倍川支流黒沢上中流域	静岡市	223	不動岳	川根本町
151	安倍川支流三河内川	静岡市	224	大代(おおじろ)学術参考保護林	島田市
152	安倍川支流中河内川仙俣川(せんまたがわ)	静岡市	225	牧之原公園斜面	島田市
153	安倍川支流油山川(ゆやまがわ)下流域	静岡市	226	巖室(いわむろ)神社の社叢	島田市
154	安倍川支流藁科川中流域	静岡市	227	笹間渡(ささまど)	島田市
155	安倍大滝	静岡市	228	抜里(ぬくり)	島田市
156	安倍峠付近	静岡市	229	堀之内	島田市
157	井川西山沢水源	静岡市	230	野守(のもり)の池	島田市
158	塩見岳	静岡市	231	勝間田(かつまた)山	牧之原市
159	横山~八重沢	静岡市	232	阿波波(あわわ)神社の社叢	掛川市
160	久能山(くのうざん)	静岡市	233	粟ヶ岳(あわがたけ)	掛川市
161	熊の平	静岡市	234	堤ヶ谷(つづみがや)池	菊川市
162	鯨ヶ池(くじらがいけ)	静岡市	235	須々木(すすき)海岸砂丘	牧之原市
163	県民の森(井川峠含む)	静岡市	236	男神山(おかみやま)、女神山(めかみやま)	牧之原市
164	光岳(てるだけ)	静岡市	237	地頭方(じとうがた)のシラン群落	牧之原市
165	荒川小屋	静岡市	238	萩間川(はぎまがわ)源流部	牧之原市
166	黒部沢上流域	静岡市	239	イスノキ群生林	御前崎市
167	三伏(さんぶく)峠	静岡市	240	御前崎	御前崎市
168	山伏(やんぶし)岳	静岡市	241	上岬(うえみさき)西方	御前崎市
169	舟渡(ふなわたり)池	静岡市	242	白羽(しろわ)海岸砂丘	御前崎市
170	小赤石(こあかいし)尾根	静岡市	243	遠州灘砂丘内(の)の後背(こうはい)湿地	御前崎市
171	上河内(かみこうち)岳	静岡市	244	桜ヶ池(さくらがいけ)	御前崎市
172	聖平(ひじりだいら)	静岡市	245	菊川河口部~下流域	掛川市
173	誓願寺(せいがんじ)	静岡市	246	菊川支流牛淵(うしぶち)川下流域	掛川市
174	赤石(あかいし)岳	静岡市	247	兼政池(かねまさいけ)	掛川市
175	千枚岳	静岡市	248	小笠山	掛川市
176	千枚小屋	静岡市	249	田ヶ池(たがいけ)	掛川市
177	大井川源流部(間ノあいの)岳、農鳥(のうどり)岳	静岡市	250	可睡齋(かすいさい)とその付近の湿原	袋井市
178	大川	静岡市	251	油山寺(ゆざんじ)天狗谷	袋井市
179	大谷崩(おおやくずれ)	静岡市	252	小笠山(法多山(はつたさん)含む)	袋井市等
180	大門沢(だいもんざわ)出会	静岡市	253	海岸植生	掛川市
181	大籠(おおかご)岳	静岡市	254	アキザキヤツシロラン群生地	磐田市
182	地蔵峠	静岡市	255	桶ヶ谷沼(おけがやぬま)・鶴ヶ池	磐田市
183	茶臼岳(ちやうすだけ)	静岡市	256	見付天神(みつけてんじん)の森・つつじ公園	磐田市
184	中平(なかひら)	静岡市	257	太田川支流今之浦川支流古川	磐田市
185	長熊	静岡市	258	天竜川中下流部左岸三十三番池	磐田市
186	東俣広河原	静岡市	259	太田川下流域	磐田市
187	巴川支流吉田川及び支流	静岡市	260	梅山八幡(はちまん)神社の森	袋井市
188	百間平(ひやっけんだいら)	静岡市	261	上気賀(かみきが)のシイ林	磐田市
189	福養(ふくよう)の滝	静岡市	262	天竜川中州	磐田市
190	北荒川岳	静岡市	263	砂利穴池(じやりあないけ)	磐田市
191	麻機遊水地周辺	静岡市	264	一雲済川(いちうんさいがわ)	磐田市
192	門屋(かどや)	静岡市	265	壱貫地(いつかんじ)	磐田市
193	有東木(うとうぎ)沢上流部	静岡市	266	栗下	磐田市
194	用宗(もちむね)	静岡市	267	獅子ヶ鼻(しがはな)公園の植物群落	磐田市
195	竜爪(りゅうそう)山	静岡市	268	小国(おくに)神社の社叢	森町
196	藁科川(わらしながわ)下流部右岸支流	静岡市	269	大日山(だいにちさん)	森町
197	藁科川下流部右岸支流小瀬戸川	静岡市	270	大門(だいもん)	森町
198	樺島(さわらじま)	静岡市	271	阿多古川(あたごがわ)中流域下部	浜松市
199	廻沢(めぐりさわ)	藤枝市	272	船明(ふなぎら)ダム	浜松市
200	瀬戸川支流朝比奈川(あさひながわ)中流右岸	藤枝市	273	渡ヶ島(わたがしま)諏訪神社の社叢	浜松市
201	高草山(たかくさやま)	焼津市	274	コガネ沢	浜松市
202	浜当目(はまどうめ)~大崩(おおくずれ)海岸	焼津市	275	岩岳山(いわたけやま)・竜馬(りゅうま)ヶ岳(たけ)(京丸含む)	浜松市
203	岡田山飽波(おかでやまあくなみ)神社の社叢	藤枝市	276	気田川(けたがわ)	浜松市
204	若一王子(じやくいちおうじ)神社社叢	藤枝市	277	秋葉(あきは)山頂	浜松市
205	瀬戸川支流滝沢川	藤枝市	278	新宮池(しんぐういけ)	浜松市
206	蓮華寺池(れんげじいけ)	藤枝市	279	川上(かわかみ)の冷温帯性	浜松市
207	千葉山(ちばさん)	島田市	280	郷島(ごうじま)	浜松市

今守りたい大切な自然及び候補地一覧(3)

番号	候補地	市町名
281	アカヤシオ群生地	浜松市
282	ホソバシヤクナゲ群落	浜松市
283	下平山(しもひらやま)	浜松市
284	箒木山(ほうきやま)	浜松市
285	シライワ沢	浜松市
286	ヒョー越(ごし)	浜松市
287	灰の沢～水窪(みさくぼ)ダム	浜松市
288	気田川(けたがわ)支流杉川上流域	浜松市
289	気田川上流域	浜松市
290	熊伏(くまぶし)山	浜松市
291	五丁坂頭(ごちようざかとう)山	浜松市
292	山王峽(さんのうきょう)	浜松市
293	山住(やまずみ)神社	浜松市
294	常光寺(じょうこうじ)山	浜松市
295	新田(しんでん)付近	浜松市
296	水窪川本流及び戸中川(とちゅうがわ)上流域	浜松市
297	草木(くさぎ)	浜松市
298	山ノ尾根山	浜松市
299	朝日山	浜松市
300	白倉川(しらくらがわ)	浜松市
301	門桁山(かどけたやま)	浜松市
302	野鳥の森	浜松市
303	竜頭山(りゅうとうざん)	浜松市
304	浦川	浜松市
305	佐久間(さくま)ダム	浜松市
306	神妻(かづま)のシダ植物	浜松市
307	大洞山(おおほらやま)のシダ植物	浜松市
308	佐鳴湖(さなるこ)	浜松市
309	四ツ池公園	浜松市
310	大草山(おおくさやま)	浜松市
311	中田島砂丘	浜松市
312	馬込川(まごめがわ)河口とその付近	浜松市
313	浜松篠原海岸	浜松市
314	富塚	浜松市
315	遠州灘海岸	浜松市等
316	県立森林公園	浜松市
317	御陣屋川(ごじんやがわ)の群落	浜松市
318	高根金比羅神社のシイ林と林下植物	浜松市
319	中瀬(なかぜ)	浜松市
320	奥山方広寺(ほうこうじ)の寺叢	浜松市
321	観音山学術参考保護林	浜松市
322	四方浄(しほうじょう)	浜松市
323	渋川	浜松市
324	城山～浅間山の植物	浜松市
325	中代(なかしろ)峠付近の植物	浜松市
326	都田川支流井伊谷川中流域下部	浜松市
327	都田川支流瀬淵川上流田代川	浜松市
328	都田川本流瀬淵川合流点	浜松市
329	東久留米木(ひがしくるめき)新田	浜松市
330	鳶ノ巣山(とびのすやま)南谷の植物	浜松市
331	霧山雑木林	浜松市
332	霧山天池(あまいけ)	浜松市
333	富幕山(とんまくやま)の植物群落	浜松市
334	タシロラン等	浜松市
335	都田川下流域上部	浜松市
336	都田川支流井伊谷川下流域上部	浜松市
337	西神田川(にしじんでんがわ)中流部右岸湿地	浜松市
338	石灰岩地の陸産貝類	浜松市
339	中山(なかやま)峠の樹林	浜松市
340	猪鼻湖(いののはなこ)	浜松市
341	本坂(ほんさか)峠の照葉樹林	浜松市
342	浜名湖	浜松市
343	トキワマンサク北限群生地	湖西市
344	マンサク南限群生地	湖西市
345	笠子川(かさごがわ)支流坊瀬川(ぼうせがわ)源流～中流域	湖西市
346	湖西地方の湿地	湖西市
347	松見ヶ浦(まつみがうら)	湖西市
348	多米(ため)峠の照葉樹林	湖西市
349	大知波(おおちば)一本杉奥の溪側	湖西市
350	入出太田川(いりでおおたがわ)中流部右岸湿地	湖西市
351	梅田の池周辺と嵩山(すやま)	湖西市
352	吹上	浜松市

資料 2 策定の経緯

■ 2015 年度（平成 27 年度）

2015 年（平成 27 年）		
5 月 30 日	生物多様性地域戦略策定 特別講演会	◇講演「静岡県で生物多様性を考える」 （静岡県レッドデータブック改訂監修委員 岩槻邦男氏） ◇会場：県男女共同参画センターあざれあ（静岡市）
12 月 25 日	平成 27 年度第 1 回静岡県生物多様性 地域戦略策定検討委員会	◇策定方針（案）について ◇今後の進め方について
25 日	平成 27 年度第 1 回静岡県生物多様性 地域戦略策定庁内会議	◇策定方針（案）について ◇今後の進め方について
2016 年（平成 28 年）		
3 月	平成 27 年度第 2 回静岡県生物多様性 地域戦略策定庁内会議（文書）	◇基本構想（案）について
22 日	平成 27 年度第 2 回静岡県生物多様性 地域戦略策定検討委員会	◇基本構想（案）について

■ 2016 年度（平成 28 年度）

2016 年（平成 28 年）		
6 月 4 日	静岡県生物多様性地域戦略 タウンミーティング（東部）	◇地域戦略の概要説明、意見交換、自由参加型 ブレインストーミング（参加者 27 名） ◇会場：沼津市立図書館（沼津市）
7 日	平成 28 年度第 1 回静岡県生物多様性 地域戦略策定庁内会議	◇策定方針について ◇基本構想（案）について
15 日	平成 28 年度県政世論調査 （15 日～28 日）	◇設問：「生物多様性」という言葉や意味の認識、 生物多様性の保全に必要な取組、保全に配慮し たライフスタイル ◇県民 4,000 人対象、有効回答数 2,180 人、有効 回答率 54.5%
21 日	静岡県生物多様性地域戦略 タウンミーティング（西部）	◇地域戦略の概要説明、意見交換、自由参加型 ブレインストーミング（参加者 16 名） ◇会場：浜松市市民協働センター（浜松市）
25 日	静岡県生物多様性地域戦略 タウンミーティング（中部）	◇地域戦略の概要説明、意見交換、自由参加型 ブレインストーミング（参加者 72 名） ◇会場：アイセル 21（静岡市）
7 月 1 日	平成 28 年度第 1 回静岡県生物多様性 地域戦略策定検討委員会	◇基本構想（案）の検討
12 月 2 日	平成 28 年度環境保全セミナー （静岡県環境アセスメント協会・静岡 県環境保全協会・静岡県共同開催）	◇講演「静岡県の生物多様性保全の取り組み」 （静岡県くらし・環境部環境局自然保護課） ◇講演「生物多様性を巡る事業者の取り組み」（三 井住友信託銀行 経営企画部 CSR 推進室 審議役 /経団連自然保護協議会 企画部会長 石原博氏） ◇会場：ペガサート（静岡市）
—	静岡県生物多様性地域戦略策定庁内 会議（文書）	◇意見照会
22 日	平成 28 年度第 2 回静岡県生物多様性 地域戦略策定検討委員会	◇静岡県生物多様性地域戦略（案） （第 1 章～第 5 章）の検討
2017 年（平成 29 年）		
2 月	静岡県生物多様性地域戦略策定庁内 会議（文書）	◇意見照会
3 月 22 日	平成 28 年度第 3 回静岡県生物多様性 地域戦略策定検討委員会	◇静岡県生物多様性地域戦略（案）の検討

■ 2017年度（平成29年度）

2017年（平成29年）		
6月14日	平成29年度第1回静岡県生物多様性地域戦略策定庁内会議	◇静岡県生物多様性地域戦略（案）の検討
7月11日	平成29年度第1回静岡県生物多様性地域戦略策定検討委員会	◇ふじのくに生物多様性地域戦略（案）の検討
9月	静岡県生物多様性地域戦略策定庁内会議（文書）	◇意見照会
10月11日	平成29年度第2回静岡県生物多様性地域戦略策定検討委員会	◇ふじのくに生物多様性地域戦略（案）の検討
11月17日	パブリックコメント	◇11月17日～12月13日（意見提出8人）
12月	静岡県生物多様性地域戦略策定庁内会議（文書）	◇意見照会
2018年（平成30年）		
2月9日	平成29年度第3回静岡県生物多様性地域戦略策定検討委員会	◇ふじのくに生物多様性地域戦略（案）の検討等
3月	策定	

資料3 委員名簿

■ 静岡県生物多様性地域戦略策定検討委員会（50音順、敬称略）

氏名	所属	備考
石井 潔*	公益社団法人 ふじのくに・地域大学コンソーシアム 理事長	
石原 博	三井住友信託銀行経営企画部 CSR推進室審議役、経団連自然保護協議会企画部会長	
板井 隆彦	静岡県自然環境保護調査委員会 委員長	副会長
岩槻 邦男	東京大学 名誉教授	会長
岸本 年郎	ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授	
小南 陽亮	静岡大学教育学部 教授	
佐野 裕二	富士通株式会社沼津工場 総務部	
重岡 廣男	谷津山再生協議会 顧問	
中村 範子	静岡県生活協同組合連合会 常務理事	
平井 一之	一般社団法人 静岡県環境資源協会 専務理事	
水谷 洋一	静岡大学地域創造学環 教授	
三宅 隆	NPO法人 静岡県自然史博物館ネットワーク 副理事長	
宮崎 孝昭	静岡県経済農業協同組合連合会 農業振興課長	
山本 哲	NPO法人 せんがまち棚田倶楽部 理事長	

*2015～2016年（平成27～28年）度は伊東幸宏委員が在任。

資料 4 用語解説

あ行

■磯焼け (P70, 71, 80, 135, 139)

沿岸の岩礁(磯)に生育するカジメ・サガラメ・テングサ等の藻場が衰退し、焼け跡のような状態になる現象。その原因として、海流の変化による水温の上昇や、海藻の生育に必要な栄養分の不足、石灰藻等他の海藻の繁茂、魚類やウニ等の藻食性生物による食害があげられている。磯焼けにより、アワビ等の磯の生物が減少し、漁業に打撃を与える。

■遺伝的攪乱

(P32, 37, 41, 43, 44, 68, 72, 84, 95, 104, 106, 123, 144)

交配可能な種や亜種、同じ種であっても他の地域の個体群や遺伝子組み換え作物等、異なる遺伝子情報を持つ個体群が人によって持ち込まれて在来の地域個体群と交雑することにより起きる、地域個体群の遺伝子組成の攪乱のこと。人によって持ち込まれた個体群との交雑が起きると、結果としてその群に独特な遺伝子情報の消失や単一化等の遺伝子汚染が生じ、生物多様性の一つである種および種内の遺伝的多様性が損なわれるおそれがある。

■今守りたい大切な自然 (P1, 76, 87, 96, 99, 137, 147, 160, 161, 162, 163, 164)

2004年(平成16年)3月に発行された「静岡県版レッドデータブック」に示された重要生息・生育地。開発候補地となりやすい場所や生態的に重要な場所、法的規制等のない地域等の選定基準から、県内10か所が選ばれている。詳しくは資料編「資料1 今守りたい大切な自然」を参照。

■エコアクション21 (EA21) (P46, 109, 110)

中小事業者の環境への取組を促進するとともに、その取組を効果的・効率的に実施するため、中小事業者でも容易に取り組めるようにした環境マネジメントシステム。環境省が1996年(平成8年)に環境マネジメントシステムとして策定した。2004年(平成16年)より「エコアクション21認証・登録制度」が開始され、一般社団法人持続性推進機構がエコアクション21に取り組む事業者を認証・登録している。

か行

■外来生物

(P10, 12, 14, 30, 31, 32, 33, 41, 44, 55, 67, 68, 70, 78, 79, 95, 104, 105, 116, 139, 142, 146, 149)

もともとその生物が住んでいなかった地域に、貿易や人の移動等の人間活動を介して意図的・非意図的に持ち込まれた生物のこと。国内の移動でも、もともと住んでいなかった地域に導入されたものは外来生物であり、「国内外来生物」と呼ばれる。

■外来生物法 (P104, 105, 139)

正式名称は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」で、2005年(平成17年)6月より施行されている。海外からの外来生物(主として明治以後に外国から入ってきた外来生物に焦点を当てている)による日本の生態系、人の生命や健康、農林水産業

への被害を防止するために、飼養、栽培、保管又は譲渡、輸入等を禁止するとともに、国等による防除措置等を定め、違反者には重い罰則もある。

■下層植生 (P58, 61, 82)

森林において高木層等林冠を構成する上層植生に対し、森林内に生育する低木層や草本層等の植生のこと。下層植生が豊かであると構成する植物が豊富になるだけでなく、それを利用する動物が増加する等森林生態系の多様性に大きく寄与する。

■環境保全型農業 (P91, 124)

農薬、化学肥料等の使用量の削減や、有機物を積極的に利用した土づくり等の実施により、環境に与える負荷をより少なくし、持続可能な生産を目指した農業をいう。

■汽水湖 (P76)

水質による湖沼の分類の一つで、淡水に海水が入り込んでいる湖のこと。

■漁獲可能量 (TAC) 制度 (P135)

魚種ごとに年間の漁獲可能量を定め、水産資源の適切な保存・管理を行うための制度。「TAC」とは、Total Allowable Catch (漁獲可能量) の略。

■国際自然保護連合 (IUCN) (P8, 9, 85, 86)

1948年(昭和23年)に世界的な協力関係のもと設立された、国家、政府機関、非政府機関で構成される国際的な自然保護ネットワーク。IUCNはInternational Union for Conservation of Natureの略で、自然保護に関する世界最大のネットワークでもある。

■国立公園 (P74, 75)

自然公園法に基づく国立公園に準ずる優れた自然の風景地。都道府県知事の申し出により環境大臣が指定し、県が管理する。特別地域では、指定された野生生物種の捕獲や採取が禁止されているほか、工作物の新築、木竹の伐採等の行為が制限される。

■国立公園 (P74, 75, 77, 138, 141, 143, 161)

自然公園法に基づき、優れた自然の風景地の保護および利用、生物多様性の確保を目的として、特にわが国を代表する火山景観、山岳景観、海岸景観等の傑出した地域で、国により指定されるもの。

さ行

■里地里山

(P1, 10, 12, 20, 33, 37, 45, 51, 57, 58, 59, 60, 66, 88, 90, 91, 95, 116, 123, 124)

奥山と都市の中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原等で構成される地域概念であり、生物多様性の面でも重要な役割を果たしている二次的自然。近年、過疎化や開発が進み、質の低下や消失が見られる。このため、生物多様性国家戦略では里地里山の危機を位置付け、重点的に取り組むこととしている。

■サンドバイパスシステム(P133)

港口付近に堆積する砂を固定設備により吸い上げ、パイプラインで侵食傾向の海岸へ継続的に輸送するシステム。

■静岡県環境基本計画(P14, 17, 18, 94)

静岡県環境基本条例の基本理念である「健全で恵み豊かな環境の恵沢の享受と将来世代への継承」を図るため、1997年(平成9年)3月に策定された計画。その後、計画の見直しが行われ、2011年(平成23年)3月に「第3次静岡県環境基本計画 環境の理想郷“ふじのくに”の創造～やすらぎと活力のある持続可能な社会の実現～」、2015年(平成27年度)に第3次計画改定版が策定された。

■静岡県環境基本条例(P17)

環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、現在及び将来の県民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的として制定された条例で、1996年(平成8年)4月から施行されている。

■静岡県希少野生動植物保護条例(P13, 14, 17, 40, 102)

絶滅に瀕する野生動植物を保護するため、個体の取り扱いに関する規制及び生息地等の保護回復のための措置について必要な事項を定めた条例で、2011年(平成23年)4月1日から施行されている。また、同条例に基づき、希少野生動植物のうち特に保護が必要な種としてホテイラン等11種を、「指定希少野生動植物」に指定している。

■静岡県立自然公園条例・静岡県立自然公園(P14, 74, 102, 145)

県内にある優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、県民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的として、1961年(昭和36年)11月1日から施行されている条例。特別地域では、知事が指定する動植物の捕獲や採取、工作物の新築、木竹の伐採等の行為が許可が必要な行為とされ、普通地域では知事への届出が必要である。

■自然環境保全法・自然環境保全地域(P59, 74, 75, 120, 121, 122, 126, 130, 131, 133, 148, 156, 160)

国民が将来にわたって自然のめぐみを受けることができるように自然環境の保全に関する基本的事項を定めた法律。自然環境保全の理念や自然環境保全基礎調査等基本的事項についての規定のほか、原生自然環境保全地域、自然環境保全地域の指定や保護規制等を定めている。なお、自然環境保全地域は環境大臣が指定する自然環境保全の目的を達成させるための保全地域であり、特別地区、海中特別地区、普通地区に区分され、特別地区では工作物の新築や木竹の伐採等の行為は許可が必要な行為とされ、普通地区では知事への届出が必要となる。

■自然共生社会(P17, 91)

生物多様性が適切に保たれ、自然の循環に沿う形で農林水産業を含む社会経済活動を自然環境に調和したものとし、また、様々な自然とのふれあいの場や機会を確保することにより、自然のめぐみを将来にわたって享受できる社会のこと。

■自然公園法・自然公園(P14, 55, 74, 75, 120, 121, 122, 126, 130, 131, 133, 156, 160)

すぐれた自然の風景地を保護し、自然に親しむ場としてその利用の増進を図るとともに、生物多様性の確保することを目的に指定している地域。自然公園法に基づき、環境大臣が指定する国立公園及び国定公園、同法に基づく自然公園条例により都道府県が指定する都道府県立自然公園の3種類が指定されている。

■持続可能な開発目標(SDGs)(P14, 15, 16, 46, 47, 98, 110)

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は、2015年(平成27年)9月の国連総会で採択された「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」と題する成果文書で示された具体的行動指針である。17の個別目標とより詳細な169項目の達成基準から構成される。

■植生(P18, 28, 29, 32, 33, 44, 57, 58, 61, 62, 74, 78, 81, 82, 83, 116, 120, 121, 142)

地球上の陸地において、ある場所に生育している植物の集団をいう。地形や気候等の環境要因や、伐採や農耕等の人為的要因の影響を受ける一方、植生がこれらの環境要因を変化させることもある。

■植生遷移(P62)

植生が年月を経て変化していくこと。単に遷移ともいう。裸地、草原、灌木林、陽樹林、陰樹林という流れが代表的である。最終的な樹林のことを極相林と呼び、これが成立するまでに通常200年以上を要するといわれる。

■人工林

(P5, 10, 35, 45, 57, 58, 59, 61, 62, 64, 65, 82, 91)

人が苗木(スギ・ヒノキ等)等を植栽して育てた森林をいう。

■水源かん養(P5, 10, 62, 122, 138)

雨水を地表及び地中に一時的に蓄え、河川や地下水等の水源が枯渇しないようにする機能をいう。

■生態系被害防止外来種(P41)

2010年(平成22年)の生物多様性条約第10回締約国会議で採択された愛知目標の達成に資するとともに、外来生物についての国民の関心と理解を高め、様々な主体に適切な行動を呼びかけることを目的とした、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)」に掲載されている外来種。特定外来生物とは異なり、国内由来の外来種も対象に含む。これに伴い、要注外来生物のリストは廃止された。

■生物多様性基本法(P14, 17)

わが国初の生物多様性の保全を目的とした基本法として、2010年(平成20年)6月から施行されている。生物多様性をもたらす恵沢を次の世代に引き継いでいくため、事業計画の立案段階で事業者が環境アセスメントを実施するよう国に必要な措置を求める等、生物多様性の保全施策に関する規定を整備した。また、政府による「生物多様性国家戦略」の策定や、地方自治体による地域戦略策定等も定めている。

■生物多様性条約第10回締約国会議（COP10） （P14, 17, 91, 152）

2010年（平成22年）10月に名古屋市で開催された、生物多様性条約の10回目となる締約国会議（COP）。遺伝資源の採取・利用と利益配分に関する枠組みである「名古屋議定書」や、生物多様性の損失を止めるための新目標である「愛知目標」等が採択された。また、途上国への資金援助や、「SATOYAMA イニシアティブ」等生物多様性を守るための国際的な取組に関する様々な取り決めがなされた。

■世界遺産・世界文化遺産 （P1, 13, 14, 54, 55, 56, 73, 76, 82, 141）

貴重な自然遺産や、過去人類が残してきた偉大な文化遺産等を、人類全体のための世界遺産として守り継承していくため、1972年（昭和47年）のユネスコ総会で採択された「世界遺産条約」に基づく世界遺産リストに登録された物件のこと。1975年（昭和50年）に発効した。世界遺産はその内容によって、自然遺産、文化遺産、複合遺産の3種類に判別されている。

■世界農業遺産（GIAHS） （P13, 14, 49, 52, 63, 64, 91, 115, 158）

正式には世界重要農業遺産システムという。伝統的な農業と、農業によって生まれ維持されてきた農地やため池・水利施設等の灌漑、技術、文化風習、風景、そしてそれを取り巻く生物多様性の保全を目的に、世界的に重要な地域を国連食糧農業機関（FAO）が認定するもの。

た行

■多自然川づくり（P130）

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の生活や歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことをいう。以前は「多自然型川づくり」と呼ばれていた。

■ちさんちしょう地産地消（P124）

地域生産地域消費の略語で、地域で生産された農産物や水産物をその地域で消費すること。食や環境に対する安全・安心志向の高まりを受けて、消費者と生産者との「顔が見える」関係の構築に資する動きとして注目されている。また、輸送エネルギーの省エネ化や地元農林水産業の振興にも効果が期待できる。

■茶草場農法（P13, 14, 49, 52, 63, 115, 125, 158）

秋冬期に茶園周辺のススキやササ等の草を刈り、茶園に敷く伝統的な農法。本農法の主な実施区域である掛川市、菊川市、島田市、牧之原市及び川根本町の4市1町が推進協議会を設立し、県の支援・推薦のもと、認定申請を行った結果、2013年（平成25年）5月に世界農業遺産「静岡の茶草場農法」として認定された。

■鳥獣保護区（P74, 75, 107, 139, 141, 156）

「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」により、鳥獣の保護繁殖を図ることを目的として定められる区域。同区域内での狩猟は禁止されている。

■天然記念物 （P6, 51, 70, 77, 79, 83, 87, 113, 148, 160）

文化財の種類の一つ。動物（生息地、繁殖地及び飛来地を含む）、植物（自生地を含む）及び地質鉱物（特異な自然の現象を生じている土地を含む）で学術上価値の高いもののうち、国や都道府県、市町村が指定したもの。

■天然林（P30, 37, 48, 57, 58, 61, 66, 74, 77, 78, 79, 80, 138, 161）

森林の更新（種子や苗木の供給）や生育の過程においてほとんど人手が加わらず、自然状態で成立した、あるいはその過程にある森林を指す。用途や分野によって使われ方が異なる場合があるが、本書では人工林に対する用語として使用しており、伐採等の人手が加わらずに何代にもわたって自然に更新してきた原生林だけでなく、伐採等の人手が加わった後に自然に再生した天然生林等の二次林を包括したものである。

■特別保護地区（P75, 160）

自然公園の中で特に優れた自然景観や原始的な状態を保持している地区のことであり、特別地域をさらに区分けて指定されるもの。特別保護地区内では開発行為等が禁止される。

■特定外来生物 （P10, 14, 41, 44, 78, 79, 104, 105, 139, 146）

外来生物のうち、特に生態系等への被害が認められるものとして、外来生物法によって規定された種。特定外来生物に指定されると、ペットも含めて飼育、栽培、保管又は運搬、譲渡、輸入、野外への放出等が禁止される。植物ではアレチウリ、オオキンケイギク、オオハングウソウ等、動物ではアライグマ、クリハラリス、ウシガエル、カミツキガメ、ソウシチョウ、オオクチバス、ブルーギル、セアカゴケグモ、ヒアリ、アカカミアリ等がある。

■特定植物群落（P87, 160）

環境省が行っている自然環境保全基礎調査のうち、特定植物群落調査において、特定植物群落選定基準に該当する植物群落を指す。

は行

■ピオトープ（P103, 118, 135）

語源はギリシャ語の生物（bios）と場所（topos）を示す造語。生物空間、生物生息空間と日本語にすることもある。

■ふじのくに森の町内会（P46, 111, 112, 123）

森林と企業をつないで森本来の力を取り戻し、良質な木材を育てる豊かな森づくりを社会全体で支える仕組みのこと。「ふじのくに町内会の間伐に寄与する紙」は、従来の紙代の他に未利用木材を搬出する費用が含まれている。この紙を印刷物として使うことで、森林の間伐費用の不足分を補い、森林整備を促進する仕組みとなっている。

■文化財（P5, 6, 51, 113）

日本の文化財保護法第2条および文化財保護条例において規定されている「文化財」のこと。

■保存樹・保存樹林(P51)

都市計画区域内における樹形が優れている巨木や神社仏閣の樹林・屋敷林を保存するために、「都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律」の規定に基づき、市町村長が指定する。

や行

■ユネスコエコパーク

(P1, 13, 14, 55, 76, 83, 84, 121, 143, 144)

正式名称は「生物圏保存地域(Biosphere Reserves: BR)」。生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)を目的として、ユネスコの自然科学セクターで実施されるユネスコ人間と生物圏(MAB:Man and the Biosphere)計画が認定し、推進する事業。地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取組である。

ら行

■レッドデータブック(P8, 13, 14, 35, 36, 37, 38, 39, 76, 87, 101, 108, 147, 153, 160, 161)

絶滅のおそれのある野生生物についてのリスト(レッドリスト)の掲載種についてとりまとめた情報。国際自然保護連合(IUCN)が1966年(昭和41年)に初めて発行した。日本では1991年(平成3年)に環境庁(現在の環境省)がレッドデータブックを作成し、2000年(平成12年)からはその改訂版が発行されている。本県では2004年(平成16年)に「まもりたい静岡県の野生生物―県版レッドデータブック―動物編」及び「まもりたい静岡県の野生生物―県版レッドデータブック―植物編」を発行した。静岡県自然環境調査委員会により編集された、静岡県における絶滅に瀕している野生動植物種を段階ごとに区分した「静岡県版レッドリスト」「今守りたい大切な自然」等が掲載されている。

■レッドリスト

(P8, 9, 13, 14, 28, 30, 36, 39, 81, 85, 86, 103, 106, 153)

絶滅のおそれのある野生生物の名称やカテゴリーについてとりまとめたリスト。国際自然保護連合(IUCN)が1966年(昭和41年)に初めて発表した。環境省では1991年(平成11年)にレッドリストを公表し、最新版は2017年(平成29年)に公表された「環境省レッドリスト2017」である。静岡県では2003年(平成15年)度に「静岡県版レッドリスト」を公表し、2017年(平成29年)にレッドリストが改定された。

■ロードキル(P50)

動物が道路上で車に轢かれる現象。轢死。

わ行

■ワンド(P130)

河川の流れ沿いにある入り江や川の淀み、淵といった河川の本流とつながっているか、水が増えた時につながってしまうような水面のこと。様々な生物が生息する豊かな環境であることが認識され、その価値が評価されている。

英数

■COP10 (the 10th Conference of the Parties) (P14, 17, 91, 152)

2010年(平成22年)に名古屋市で行われた生物多様性条約第10回締約国会議のこと。「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」の項を参照。

■CSR (Corporate Social Responsibility) (P16, 110, 112, 150, 154)

日本語では「企業の社会的責任」と一般的にいわれる。企業は社会的な存在であり、利潤や経済的効率だけを追求するのではないとする考え方。具体的な取組内容は様々であり、製品やサービスの安全と品質の確保だけではなく、環境保全活動や地域貢献等幅広い。

■ESD (Education for Sustainable Development) (P14, 119)

「持続可能な開発のための教育」を表す。環境教育をはじめ、エネルギー教育・防災教育・福祉教育・平和教育・人権教育等あらゆる分野の教育を含む概念である。

■GAP (Good Agricultural Practice) (P124, 125)

GAP(農業生産工程管理)とは、農業において食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことである。

■IPM (Integrated Pest Management) (P124, 125)

病害虫の発生状況に応じて、天敵(生物的防除)や粘着板(物理的防除)等の防除方法を適切に組み合わせ、環境への負荷を軽減しつつ、病害虫の発生を抑制する総合的有害生物管理のこと。

■ISO14001 (International Organization for Standardization 14001) (P14, 46, 109, 110)

環境マネジメントシステムの仕様を定めた規格であり、ISO規格に沿った環境マネジメントシステムを構築する際に守らなければいけない事項が盛り込まれている。基本的な構造は、PDCAサイクルと呼ばれ、①方針・計画(Plan)、②実施(Do)、③点検(Check)、④是正・見直し(Act)というプロセスを繰り返すことにより、環境マネジメントのレベルを継続的に改善していこうというものである。

■PDCA (Plan Do Check Action) (P155)

業務プロセスの管理手法の一つで、計画策定(plan)、実行(do)、点検・評価(check)、見直し(action)という4段階の活動を繰り返し行なうことで、継続的にプロセスを改善していく手法。

■SATOYAMA イニシアティブ (Satoyama Initiative) (P91)

失われつつある二次的自然環境を改めて見直し、持続可能な形で保全・利用していくためにはどうすべきかを考え、行動しようという取組。日本政府と国連大学高等研究所がともに提唱し、2010年(平成22年)にCOP10で採択された。

資料 5 参考資料

※発行者、発行年、資料名、出版社について掲載していますが、ホームページ等の電子媒体やパンフレット、行政資料等で発行年や出版社のないもの等は記載を省略しています。

第1章 生物多様性地域戦略とは

第1節 生物多様性とは

- ・環境省. 2006. 平成18年版こども環境白書.
- ・国連生物多様性の10年日本委員会. 「イキトモ」特別編 子供のための生物多様性.
- ・環境省自然環境局自然環境計画生物多様性地域戦略企画室. 2014. 生物多様性地域戦略策定の手引き (改訂版).
- ・環境省. 2012. 生物多様性国家戦略2012-2020～豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ～.
- ・環境省. 2016. COP10以降の成果と愛知目標.
- ・静岡県経済産業部管理局政策監 (ホームページ). 静岡自慢の逸品.
- ・経済産業省. 2016. 平成26年工業統計調査.
- ・静岡県経済産業部商工業局地域産業課. 2015. データでみる静岡県の地場産業.
- ・静岡県統計利用課. ふじのくにMyしずおか日本一.
- ・(財)静岡総合研究機構. 木宮久・白土達夫・糸田真男. 2012. 静岡県製造業の現状と将来像～『しずおか型元気な中小製造業』が増殖するために～. SRI 2012.3 No.106. 静岡県立大学グローバル地域センター.
- ・志太榛原農林事務所 (ホームページ). 竹林・広葉樹林等再生整備.
- ・西部農林事務所 (ホームページ). 人工林再生整備.
- ・静岡県. 2015. 静岡県経済産業部茶生産指導指針.
- ・大橋広好ほか編. 2017. 改訂新版日本の野生植物4アオイ科～キョウチクトウ科. 平凡社.
- ・環境省. 2014. 平成26年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書.
- ・ノーマン・マイヤーズ. 林雄次郎訳. 1981. 沈みゆく箱舟. 岩波書店.
- ・国際自然保護連合 (IUCN) (ホームページ). 2017. IUCN Red List version 2017-3.
- ・環境省. 2017. 環境省レッドリスト2017.
- ・環境省. 2017. 環境省版海洋生物レッドリスト.
- ・静岡県自然環境調査委員会編. 2004. まもりたい静岡県の野生生物－県版レッドデータブック－＜普及版＞. 羽衣出版.
- ・静岡県. 2017. 静岡県版レッドリスト.
- ・環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. 日本の生きものたち 私たちにできること.
- ・IPCC (気候変動に関する政府間パネル). 2014. 第5次評価報告書統合報告書.
- ・柿田川生態系研究会・三島次郎編. 竹門康弘. 2010. 柿田川の自然、湧水河川を科学する. ITSC 静岡学術出版事業部.

第2節 ふじのくに生物多様性地域戦略とは

- ・静岡県自然環境調査委員会編. 2004. まもりたい静岡県の野生生物－県版レッドデータブック－＜動物編＞. 羽衣出版.
- ・静岡県自然環境調査委員会編. 2004. まもりたい静岡県の野生生物－県版レッドデータブック－＜植物編＞. 羽衣出版.
- ・静岡県希少野生動植物保護条例. 2011.
- ・外務省. 「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」(外務省仮訳).
- ・環境省. 2017. 平成29年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書.
- ・グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン. 2016. SDG Compass (SDGsの企業行動指針).
- ・環境省. 2017. 平成29年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書. 日経印刷株式会社.
- ・環境省. 2010. 平成22年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書. 日経印刷株式会社.
- ・環境省. 2012. 豊かな自然共生社会の実現に向けて～生物多様性国家戦略2012-2020～.
- ・環境省. 2013. めぐみの星に生きる～生物多様性国家戦略2012-2020～.
- ・環境省. 2010. いのちはつながっている～生物多様性を考えよう～.
- ・国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J). 2011. 地球に生きる生命の条約～生物多様性条約～.

第2章 生物多様性の現状と課題

第1節 生物多様性を育む県土

- ・静岡県 (ホームページ). 県の概要.
- ・国土交通省国土地理院ホームページ. 静岡県市区町村の役所・役場及び東西南北端点の経度緯度 (世界測地系).
- ・静岡県. 2015. しずおかの森林.
- ・総務省統計局. 1990～2015. 国勢調査.
- ・静岡県健康福祉部. 平成22年度高齢者福祉行政の基礎調査結果.
- ・国立社会保障・人口問題研究所. 2013. 都道府県別将来推計人口.
- ・国土交通省. 2011. 国土の長期展望・中間とりまとめ.

- ・国土地理院. 基盤地図情報数値標高モデル.
- ・土隆一編著. 2010. 新版静岡県地学のガイド. コロナ社.
- ・伊豆半島ジオパーク推進協議会. 南から来た火山の贈りもの.
- ・小山真人. 2010. 伊豆の大地の物語. 静岡新聞社.
- ・国土地理院. 2000. 水準測量データから求めた日本列島 100 年間の地殻上下変動.
- ・吉本充宏・金子隆之・嶋野岳人・安田敦・中田節也・藤井敏嗣. 2004. 掘削試料から見た富士山の火山形成史. 日本火山学会講演予稿集 2004(0) 4 特定非営利活動法人日本火山学会.
- ・静岡地方気象台 (ホームページ). 静岡県の気象特性.
- ・河村武. 地理学評論. 1966. 中部日本における冬の地上風系～特に冬の季節風に関して～. 地理学評論. 39(8). 538-554.
- ・静岡県文化財保護協会. 1988. 静岡県ふるさとの自然とくらし.
- ・気候変動の影響への適応に関する関係府省庁連絡会議. 2015. 気候変動への影響への適応計画.
- ・法政大学地域研究センター. 2015. 気候変動適応ガイドライン[地方自治体における適応の方針作成と推進のために]. 環境研究総合推進費「S-8 温暖化影響評価・適応政策に関する総合研究」.
- ・環境省自然環境局. 2015. 生物多様性分野における気候変動への適応の基本的考え方.
- ・環境省自然環境局. 2015. 生物多様性分野における気候変動への適応について 当面の具体的取組.
- ・東京管区気象台. 2012. 気候変化レポート 2012-関東甲信・北陸・東海地方-.
- ・東京管区気象台. 2016. 気候変化レポート 2015-関東甲信・北陸・東海地方-.
- ・北原正彦ほか. 2001. 日本におけるナガサキアゲハ (*Papilio memnon* Linnaeus) の分布の拡大と気候温暖化の関係. 蝶と蛾. 日本鱗翅学会誌. 52 (4) . 253-264.
- ・石田義樹・末松信彦. 2005. 地球温暖化に対応した水稻の高温登熟対策技術の確立 高温登熟が玄米品質に及ぼす影響の把握 作付時期の移動による品質低下の把握・高温登熟に対する品種間差の把握. 静岡県農業試験場試験研究成果の概要集. 41-42.
- ・静岡県地球温暖化防止活動推進センター. 2015. データブック地球温暖化～世界・日本・静岡～.
- ・国土交通省国土政策局国土情報課. 国土数値情報・土地利用 3 次メッシュデータ.
- ・静岡県交通基盤部. 2017. 静岡県の土地利用 (平成 28 年版).

第 2 節 多種多様な生物

- ・静岡県. 2005. 静岡県野生生物目録.
- ・静岡県. 2015. 静岡県希少野生動植物保護基本方針.
- ・環境省. 2000～2008. 第 6 回・第 7 回自然環境保全基礎調査.
- ・静岡県自然史博物館設立推進協議会. 2001. しずおか自然図鑑. 静岡新聞社.
- ・静岡県の生物編集委員会編. 杉本順一・杉野孝雄. 1979. 静岡県の生物 静岡県の種子植物. 日本生物教育会静岡県支部.
- ・静岡県. 1985. 静岡県の自然環境～静岡県自然環境保全基礎調査の概要～.
- ・勝山輝男ほか. 神奈川県立生命の星・地球博物館. 1997. 富士・箱根・伊豆に特有な植物たち フォッサ・マグナ要素の植物. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- ・杉野孝雄. 2017. 静岡県植物分布の総合的考察. 遠州の自然. 40. 43-53.
- ・村田源・小山博滋. 1976. 襲速紀要素について. 国立科学博物館専報. 9. 111-120.
- ・広木詔三. 2002. 里山の生態学～その成り立ちと保全のあり方～. 名古屋大学出版会.
- ・植田邦彦. 1989. 東海丘陵要素の植物地理 I. 定義. 植物分類・地理 40(5～6). 190-202.
- ・池谷 仙之. 静岡県自然史博物館ネットワーク. 2010. しずおか自然史. 静岡新聞社.
- ・静岡県. 2015. 伊豆半島沿岸海岸保全基本計画.
- ・静岡県. 2015. 駿河湾沿岸海岸保全基本計画.
- ・静岡県・愛知県. 2015. 遠州灘沿岸海岸保全基本計画 (変更).
- ・静岡県自然保護課編. 1987. ふるさとの自然 (東部編). 静岡県自然保護協会.
- ・静岡県自然保護課編. 1988. ふるさとの自然 (伊豆編). 静岡県自然保護協会.
- ・静岡県自然保護課編. 1989. ふるさとの自然 (中部編). 静岡県自然保護協会.
- ・静岡県自然保護課編. 1990. ふるさとの自然 (西部編). 静岡県自然保護協会.
- ・静岡新聞社出版局編. 1996. 静岡県の海. 静岡新聞社.
- ・静岡市環境局環境創造部環境総務課. 2010. (改訂版) 南アルプス学・概論.
- ・南アルプス世界自然遺産登録推進協議会南アルプス学術総合委員会. 2010. 南アルプス学術総論.
- ・板井隆彦. 静岡県生活環境部自然保護課. 1982. 静岡県の淡水魚類～静岡県の自然環境シリーズ～. 第一法規出版.
- ・静岡県の生物編集委員会編. 久米忠夫. 1979. 静岡県の生物 静岡県産真正クモ類. 日本生物教育会静岡県支部.
- ・静岡県. 2017. 平成 29 年版静岡県環境白書.
- ・村中康秀. 2016. 富士山からの恵み～駿河湾海底湧水発見～. 静岡県環境衛生科学研究所. 環衛レポート. 53. 1-3.
- ・静岡県自然環境調査委員会編. 2004. まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-〈普及版〉. 羽衣出版.
- ・静岡県自然環境調査委員会編. 2004. まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-〈動物編〉. 羽衣出版.
- ・静岡県自然環境調査委員会編. 2004. まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック-〈植物編〉. 羽衣出版.

- ・静岡県. 2017. 静岡県版レッドリスト2017.
- ・一般社団法人日本環境アセスメント協会. 2017. 環境アセスメント技術ガイド. 生物の多様性・自然との触れ合い.
- ・財団法人自然環境研究センター. 2008. 日本の外来生物. 平凡社.
- ・静岡県自然保護課. 特定外来生物リスト.
- ・静岡県. 2010. 平成22年度静岡県特定外来生物分布状況実態把握調査報告書.
- ・静岡県. 2011. 静岡県鳥獣被害防止マニュアル.
- ・松崎慎一郎. 2016. 世界ワースト外来種100のコイが在来生態系に及ぼす影響. 日本魚類学会. 市民公開講座2016. 魚類にみる最新の外来種問題.
- ・竹花佑介・北川忠生. 2010. メダカ：人為的な放流による遺伝的攪乱. 魚類学雑誌. 57(1). 76-79.
- ・日和佳政・佐久間慎介・柑子木郁也・草桶秀夫. 2008. ゲンジボタルの遺伝的分化と多様性から見た移植の問題点. 全国ホタル研究会誌. 41. 33-38.
- ・井口豊. 2009. ゲンジボタルの移入問題. 全国ホタル研究会誌. 42. 35-38.
- ・(財)自然環境研究センター編. 2011. 絶滅する前にできること 絶滅危惧種の生息域外保全.
- ・静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター (ホームページ). 県内ブナの遺伝的地域差.
- ・静岡県衛生課. 犬・猫の殺処分頭数.
- ・静岡県地域農業課. 野生鳥獣による農作物への被害金額.
- ・静岡県. 静岡県農林産物野生小銃被害対策連絡会. 2010. 静岡県における野生鳥獣被害対策の基本的な考え方.
- ・静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター ニホンジカ低密度化プロジェクトスタッフ. 2013. 静岡のシカ問題とシカQ&A.
- ・静岡県自然保護課. 2013. 狩猟免許取得ガイドブック.
- ・静岡県. 2017. 第二種特定鳥獣管理計画 (ニホンジカ) (第4期).
- ・静岡県. 2017. 第二種特定鳥獣管理計画 (イノシシ) (第3期).
- ・静岡県. 2017. 第二種特定鳥獣管理計画 (カモシカ) (第5期).
- ・静岡県自然保護課. 主要鳥獣種の捕獲数.
- ・静岡県自然保護課. 狩猟登録者数.

第3節 生物多様性と人とのつながり

- ・エコアクション21中央事務局 (ホームページ).
- ・公益財団法人都市緑化機構 (ホームページ).
- ・公益財団法人都市緑化機構. 社会環境貢献緑地評価システム SEGES「そだてる緑」既存緑地版.
- ・環境省. 2011. 生物多様性地域連携促進法のあらまし.
- ・静岡県. 緑化優良工場事例集 緑に包まれた静岡の工場～ガーデンシティを目指して～.
- ・富士通株式会社 (ホームページ). 富士通株式会社沼津工場環境教育への取組.
- ・経団連自然保護協議会・生物多様性民間参画パートナーシップ. 2014. 日本企業による環境教育の現状～生物多様性に関する環境教育事例集～.
- ・三菱電機株式会社 (ホームページ).
- ・静岡県. 2016. 平成26年度PRTR報告書.
- ・静岡県生活環境課. 魚のへい死事故件数.
- ・静岡県. 2015. データで見る静岡県の地場産業.
- ・静岡県. 2016. 平成27年度版静岡県環境白書.
- ・静岡県農地保全課・農地整備課. 県民や事業者等の参加による保全活動の事例.
- ・静岡県自然保護課. 自然環境保全協定の締結数・面積.
- ・環境省. 2009. 生物多様性民間参画ガイドライン.
- ・環境省. 2017. 生物多様性民間参画ガイドライン (第2版).
- ・生物多様性民間参画パートナーシップ事務局ホームページ. 生物多様性民間参画パートナーシップ.
- ・静岡県森林計画課. 林地開発許可・連絡調整面積.
- ・静岡県自然保護課. 自然保護協定の締結数・面積.
- ・静岡県教育委員会事務局文化財保護課. 指定文化財の件数.
- ・静岡県教育委員会. 2000. 静岡県の祭り・行事.
- ・静岡県文化財保存協会. 1988. 静岡県ふるさとの自然とくらし.
- ・静岡県文化財保存協会. 2013. 天然記念物(樹木)を診る～文化財所有者・行政担当者等のための天然記念物(樹木)観察マニュアル～.
- ・静岡県. 2012. 静岡県地場産業ガイドブック.
- ・静岡県商工部地場産業課. 1991. 静岡県における地場産業の生い立ち.
- ・農林水産省・農村開発企画委員会. 2007. 農山漁村の郷土料理百選・候補料理.
- ・服部一景. 静岡県健康づくり食生活推進協議会協力. 2012. 郷土の食材と料理・しずおかのおかず.
- ・関東農政局静岡統計情報事務所編. 2001. 静岡県農林水産地ガイド. 黒船印刷株式会社.
- ・静岡県商工労働部地域産業振興課. 1994. 静岡県わが郷土と自慢の逸品.
- ・静岡市葵区役所地域総務課. 2014. 葵区在来生物ガイドマップ.
- ・静岡県. 平成24年度静岡県における観光の流動実態と満足度調査報告書.
- ・静岡県グリーン・ツーリズム協会事務局. 2014. まるごと体験ガイド.
- ・NPO法人日本エコツーリズム協会. エコツアー総合情報サイト. エコツアー総覧.

- ・財団法人中部産業活性化センター．2008．中部のエコツアー50選．
- ・NPO法人日本エコツーリズム協会．2015．ECO ツーリズム．68．
- ・静岡県．2016．平成27年度静岡県観光交流の動向．
- ・静岡県．2016．平成27年度版静岡県環境白書．
- ・静岡県環境政策課．2012．ふじのくに環境教育基本方針．
- ・静岡県環境政策課．環境学習フェスティバル．
- ・静岡県環境ふれあい課．2012．小中学校で使える環境学習プログラム．
- ・静岡県環境ふれあい課．2014．しずおか環境学習マップ．
- ・静岡県環境ふれあい課．森林教育プログラム（シリーズ）．
- ・ふじのくに地球環境史ミュージアム（ホームページ）．
- ・環境省．2009．絶滅のおそれのある野生動植物種の生息域外保全に関する基本方針．
- ・静岡県．2016．平成28年度県政世論調査．
- ・内閣府．2014．内閣府世論調査．

第4節 本県を構成する生態系

- ・山本勝利．2006．農業環境技術研究所成果発表会．豊かな生物相をはぐくむ農業を探る．
- ・静岡県くらし・環境部環境局自然保全課．2015．富士山の自然と恵み．
- ・環境省．2000～2008．第6回・第7回自然環境保全基礎調査．
- ・静岡県森林・林業研究センター．ニホンジカの過食圧によるニッコウキスゲ群落の消滅．
- ・公益社団法人静岡県農業振興基金協会・公益社団法人静岡県漁業振興基金．平成26年度静岡県の農林水産業．
- ・静岡県森林計画課．2017．静岡県森林・林業統計要覧 平成28年版．
- ・静岡県森林計画課．2017．平成29年度版静岡県森林共生白書．
- ・静岡県．2014．静岡県ナラ枯れ対策ガイド．
- ・静岡県．2009．桜で彩る富士の景観づくり構想．
- ・農林水産省．木材統計調査．農林水産省．2017．生産農業所得統計 平成27年．
- ・独立行政法人農業環境技術研究所．2014．農業と環境NO.171．農業環境技術研究所リサーチプロジェクト（RP）の紹介（2014-6）：生物多様性評価RP．
- ・静岡県農業ビジネス課．荒廃農地面積．
- ・平井剛夫．2014．カラーコラム 静岡県の外来生物 スクミリングガイ．特定非営利活動法人静岡県自然史博物館ネットワーク．自然史しずおか．45．
- ・農林水産省．1999．日本の棚田百選．
- ・静岡県農地保全課．1999．静岡県の棚田等十選．
- ・静岡県お茶振興課．静岡の茶草場農法．
- ・世界農業遺産「静岡の茶草場農法」推進協議会（ホームページ）．
- ・静岡県．2005．静岡県のわさび．
- ・林野庁．2014．特用林産基礎資料．
- ・静岡県農芸振興課（ホームページ）．わさびのページ．
- ・JA伊豆の国．2017．「静岡水わさびの伝統栽培」日本農業遺産に認定．
- ・静岡県．2000．里山に異変が起きている．
- ・静岡市環境局廃棄物対策部廃棄物政策課・沼上資源循環センター啓発施設．2013．タケと生ごみの活用を考える～竹粉による生ごみの分解とその後の利用について～．
- ・一般財団法人静岡市環境公社 重岡廣男．2017．静岡市沼上資源循環学習プラザ資料～自然環境には生活に役立つ情報が眠っている～
- ・国土交通省都市・地域整備局公園緑地・景観課．都市と生物多様性．
- ・国土交通省．2009．都市における生物多様性保全の推進に関する基礎調査報告書．
- ・公益財団法人都市緑化機構．2016．緑のキキメ．
- ・静岡県水産技術研究所．都田川の魚類および降下仔魚の実態 内水面生物環境調査（平成9年～13年）．
- ・齋藤竜也・金澤拓也・森本溪一郎・中道一彦・川嶋尚正・鈴木邦弘・赤川泉．2013．小規模堰堤の連なる溪流におけるアマゴの生息地選択と移動．東海大学紀要海洋学部「海—自然と文化」．10(3)．1-10．
- ・環境省．2001．日本の重要湿地500．
- ・環境省．2016．生物多様性の観点から重要度の高い湿地（重要湿地）日本の重要湿地500．
- ・吉崎真司．2014．我が国における海岸緑化の現状と課題～静岡県遠州灘海岸を例として～．景観生態学．19(1)．35-40．
- ・由良浩．2014．砂丘植生を取り巻く危機的状況とその要因．景観生態学．19(1)．5-14．
- ・静岡県森林保全課．2013．静岡県海岸防災林における森林整備方針．
- ・環境省．日本ウミガメ協議会．2007．ウミガメ保護ハンドブック．
- ・静岡県自然保護課．遠州灘でのアカウミガメ上陸数等．
- ・静岡県水産資源課．榛南地区のアワビ・サガラメ漁獲量．
- ・静岡県水産資源課．相良カジメ藻場の回復状況．
- ・静岡県水産技術研究所．カジメ群落の磯焼け．
- ・農林水産省．2015．漁業・養殖業生産統計年報．
- ・静岡県水産振興課．2016．静岡県の水産業．
- ・旧由比町．第9次漁港整備長期計画（平成6年度～平成13年度）・由比漁港．

- ・東海大学海洋学部. 2015. THE DEEP SEA-日本一深い駿河湾. 静岡新聞社.
- ・静岡県港湾企画課 (ホームページ). 世界で最も美しい湾クラブ.
- ・環境省自然環境局. 2009. 人と自然の共生をめざして.
- ・国土交通省国土政策局国土情報課. 国土数値情報 自然公園地域・自然保全地域・鳥獣保護区データ.
- ・静岡県自然保護課 (ホームページ). 自然公園・自然環境保全地域の概要.
- ・静岡県自然保護課. 2016. 静岡県総合案内図 静岡県立自然公園・自然環境保全地域配置図.
- ・静岡県. 2017. 平成28年度静岡県鳥獣保護区等位置図.

第5節 県内の特徴的な地域

- ・静岡県. 2015. 伊豆半島沿岸海岸保全基本計画.
- ・静岡県自然保護課編. 1988. ふるさとの自然 (伊豆編). 静岡県自然保護協会.
- ・大谷雅人・森下範久・鈴木和夫. 2002. 伊豆半島南部の常緑および落葉広葉樹二次林における種組成の分化. 東京大学農学部遠州林報告. 107. 99-126.
- ・静岡県産業部. 2008. 静岡県戦略課題研究「大井川・伊豆」研究報告書.
- ・伊豆半島ジオパーク推進協議会監修. 2015. 伊豆半島ジオパークトレッキングガイド. 静岡新聞社編集局出版部.
- ・国土交通省沼津河川国道事務所. 2003. 柿田川.
- ・静岡県くらし・環境部管理政局政策監. 2014. ふじのくに水紀行.
- ・柿田川自然保護の会・公益財団法人柿田川みどりのトラスト. 2016. 柿田川湧水とともに.
- ・静岡県自然保護課編. 1987. ふるさとの自然 (東部編). 静岡県自然保護協会.
- ・静岡県くらし・環境部環境局自然保護課. 2015. 富士山の自然と恵み.
- ・静岡県. 2012. ふじさん総合環境保全指針 (修正版).
- ・富士山世界文化遺産協議会. 世界遺産富士山みんなで守ろう.
- ・静岡大学防災総合センター (ホームページ). 富士山のめぐみと人々の暮らし.
- ・特定非営利活動法人富士山の森を守るホシガラスの会 (ホームページ).
- ・静岡市環境局環境創造部環境総務課. 2010. 〈改訂版〉南アルプス学・概論.
- ・静岡市. 2013. 南アルプスユネスコエコパーク管理運営計画 (静岡市域版).
- ・南アルプス世界自然遺産登録推進協議会南アルプス学術総合委員会. 2010. 南アルプス学術総論.
- ・南アルプスユネスコエコパーク公式サイト (ホームページ).
- ・静岡県水産技術研究所 (ホームページ). ヤマトイワナとニッコウイワナ.
- ・浜松市環境部環境生活課. 2013. 生物多様性はままつ戦略.
- ・静岡県水産技術研究所 浜名湖分場 浜名湖体験学習施設ウォット (ホームページ).
- ・静岡県西部地域政策局. 2014. 浜名湖あれこれ.
- ・浜名湖の水をきれいにする会. 2015. 浜名湖.
- ・環境省自然局. 2012. 平成23年度コアシサン保全方策検討調査委託業務報告書.
- ・NPO法人ラブ・ネイチャーズ. 絶滅が心配される「ヒヌマイトトンボ」2015.
- ・Willem Dekker. 2003. Slipping through our hands - Population dynamics of the European eel. ウナギ類3種 (ニホンウナギ、ヨーロッパウナギ、アメリカウナギ) の推定資源量の推移.
- ・望岡典隆. 2014. ニホンウナギ：現状と保全. 魚類学雑誌. 61(1). 33-35.
- ・海部健三. 2016. 共立スマートセレクトション8 ウナギの保全生態学. 共立出版株式会社.
- ・農林水産省農村振興局企画部農村政策課・財団法人農村開発企画委員会編. 2008. 農山漁村の郷土料理百選 御当地人気料理特選.
- ・独立行政法人水産総合研究センター. ウナギ総合プロジェクトチーム. ニホンウナギの資源状態について.
- ・国際自然保護連合 (IUCN). 2017. IUCN Red List version 2017-2.
- ・環境省. 2013. 第4次レッドリスト.
- ・静岡県. 2004. まもりたい静岡県の野生生物-静岡県版レッドデータブック. 羽衣出版.
- ・静岡県自然環境調査委員会編. 2004. まもりたい静岡県の野生生物-県版レッドデータブック<動物編>. 羽衣出版.

第3章 戦略の基本的考え方

- ・環境省. 2012. 生物多様性国家戦略2012-2020～豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ～.
- ・環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室. 2016. 生態系を活用した防災・減災に関する考え方.
- ・環境省. 2016. 人と自然がよりそって災害に対応するという考え方.
- ・環境省. 2016. 森里川海をつなぎ、支えていくために (提言).
- ・静岡県. 2016. 改定版第3次静岡県環境基本計画.
- ・ふじのくに自然系博物館基本構想検討委員会. 2014. ふじのくに地球環境史ミュージアム基本構想.

第4章 行動計画

- ・静岡県自然保護課 (ホームページ). 南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク.
- ・ふじのくに地球環境史ミュージアム (ホームページ).
- ・環境省自然環境局野生生物課. 野生動植物種を飼育・販売される皆さんへ.
- ・静岡県 (ホームページ). 静岡県の鳥・サンコウチョウ.

- ・静岡県. 2017. “ヒアリ”ハット！～ヒアリやアカカミアリかと思ったら～.
- ・環境省. 2017. ストップ・ザ・ヒアリ.
- ・環境省（ホームページ）. 絶滅のおそれのある野生動植物種の生息域外保全.
- ・静岡県農林産物野生鳥獣被害対策連絡会・静岡県. 2010. 静岡県における野生鳥獣被害対策の基本的な考え方（平成22年度～平成26年度）.
- ・生物多様性に配慮したエコラベル商品普及促進検討会. 生物多様性に配慮したエコラベル商品の普及促進に向けた今後の取組について（提言）.
- ・静岡県建設技術監理センター. 2013. 「協働の底力。虎の巻」.
- ・環境省. 2008. エコツアーリズム推進基本方針.
- ・ふじさんネットワーク（ホームページ）. 活動報告.
- ・浜松市（ホームページ）. はままつのFSC.
- ・ふじのくにCNFフォーラム（ホームページ）.
- ・ふじのくに美しく品格のある邑づくり連合. 2016. 美しく品格のある邑100.
- ・静岡県・公益社団法人静岡県緑化推進協会. 企業の森づくり しずおか未来の森サポーター.
- ・静岡県くらし・環境部建築住宅局住まいづくり課 家・庭一体の住まいづくり推進協議会. 2014. 家・庭一体の住まいづくり～快適な暮らし空間の実現を目指して～
- ・はまなこ環境ネットワーク（ホームページ）. 活動報告.
- ・麻機遊水地保全活用推進協議会（ホームページ）.
- ・巴川流域麻機遊水地自然再生協議会. 2010. 生命にぎわう わ（環・和・輪）の湿地麻機.
- ・静岡県水産技術研究所（ホームページ）. 遺伝子解析を活用した種苗生産技術改善研究（平成24～26年度）.

第5章 地域別個別計画

- ・水産庁. 太平洋南部キンメダイの広域資源管理.
- ・富士市役所. 浮島ヶ原自然公園.
- ・関東農政局. 2001. 静岡農林水産地ガイド. 黒船出版株式会社.
- ・静岡県東部農林事務所（ホームページ）. 地域の特産物（わさび）天城山麓.
- ・静岡市（ホームページ）. 南アルプスライチョウサポーター制度.
- ・静岡市. 2013. 南アルプスユネスコエコパーク管理運営計画（静岡市版）.
- ・一般社団法人エコティかわね（ホームページ）. エコティかわねとは.
- ・NPO 法人日本エルダー協会. 2016. 浜名川の浄化資料.
- ・静岡昆虫同好会（ホームページ）. 行事報告.

第6章 推進体制・進行管理

- ・環境省. 2012. 生物多様性国家戦略2012-2020～豊かな自然共生社会の実現に向けたロードマップ～.
- ・一都十県自然保護主管課長会議規則.
- ・中部7県自然保護行政主管課長会議規約.

写真提供・協力（敬称略、順不同）

三宅隆、小泉金次、小倉辰彦、中村匠（東海大学）、掛川観光協会、伊東市観光課、川根本町、株式会社東海アクアノーツ（石橋英二、松永育之）、三菱電機株式会社静岡製作所、株式会社環境アセスメントセンター（石川均、加藤健一、北原佳郎、栗原淳、小長谷尚弘、酒井孝明、馬場美也子、堀内純、水上貴博、室伏幸一）

100 年後、1000 年後にも



自然と人が共生できる静岡県に

ふじのくに生物多様性地域戦略

2018 年（平成 30 年）3 月

静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号
TEL 054-221-2719 FAX 054-221-3278

